

CASBEE® 名古屋

■使用評価マニュアル: CASBEE 評価マニュアル(2016年改定) ■使用評価ソフト: CASBEE_Nagoya_2016(v3.0)

評価結果

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	中日ビル建替計画	階数	地上33F
建設地	名古屋市中区栄四丁目1番1号	構造	S造
用途地域	商業地域、防火地域	平均居住人員	18,258 人
地域区分	6地域	年間使用時間	3,000 時間/年(想定値)
建物用途	事務所、ホテル、工場、等	評価の段階	
竣工年	2023年7月 予定	評価の実施日	2023年6月30日
敷地面積	6,862 m ²	作成者	
建築面積	5,928 m ²	確認日	
延床面積	117,293 m ²	確認者	



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)	2-2 ライフサイクルCO ₂ (温暖化影響チャート)	2-3 大項目の評価(レーダーチャート)
BEE = 3.6 ★★★★★ S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B-: ★★★★★ C: ★ 環境品質 Q 環境負荷 L	★☆☆☆ ☆☆☆☆ ☆☆☆☆ ☆☆☆☆ ☆☆☆☆ 標準計算 ①参照値 ②建築物の取組み ③上記②以外のオンサイト手法 ④上記③のオフサイト手法 このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO2排出量の目安で示したものです	Q2 サービス性能 Q1 室内環境 Q3 室外環境(敷地内) LR1 エネルギー LR2 資源・マテリアル LR3 敷地外環境

2-4 中項目の評価(バーチャート)		
Q 環境品質 Q1 室内環境 Q1のスコア= 4.1 音環境 温熱環境 光・視環境 空気質環境	Q2 サービス性能 Q2のスコア= 4.4 機能 耐用性・信頼性 対応性・更新性	Q3 室外環境(敷地内) Q3のスコア= 4.5 生物環境 まちなみ 地域性
LR 環境負荷低減性 LR1 エネルギー LR1のスコア= 3.9 建物外皮の熱負荷 自然エネルギー 設備システム効率化 効率的	LR2 資源・マテリアル LR2のスコア= 4.2 水資源保護 非再生材料の 汚染物質回避	LR3 敷地外環境 LR3のスコア= 4.0 地球温暖化への配慮 地域環境への配慮 周辺環境への配慮

3 設計上の配慮事項		その他
総合 建屋外皮性能向上及び、高効率設備システム採用により地球環境への配慮をした建築物となるよう計画した。		
Q1 室内環境 建築材の遮音性能を高め、快適な執務空間形成に努めている。NC値設定および計算による確認を行い、目標値を確実に達成できるように計画した。また、断熱性能を高め室内の温熱環境向上にも努めている。	Q2 サービス性能 一人当たりの執務空間に余裕を持たせ、OAフロアの採用によるフレキシビリティの高い執務空間とした。更に構造的にも建築基準法を上回る性能に設定することにより、災害時への耐用性・信頼性を高めている。	Q3 室外環境(敷地内) 地域に対する配慮として、景観の歴史的継承として旧中日ビルの外装デザインを受け継いだ格子状の外装デザインとし、広小路・久屋大通に対して同じファサードを連続させることで建物に一体感を持たせる計画とした。視線を遮らないような樹木の設置や、窓配置とすることで防犯性の確保にも努めている。
LR1 エネルギー 外皮性能の向上につとめ、室内負荷の低減を行っている。また、高効率設備システムの導入により、年間のエネルギー消費量の削減を図っている。BEMSの導入したエネルギー管理システムにより、運用段階でのエネルギー消費量の検証を可能にしている。	LR2 資源・マテリアル 節水型衛生器具の採用や、リサイクル材の仕様を通して、資源の使用量削減に努めている。また、有害物質をできるだけ抑えることにより地球環境への負荷を抑える計画としている。	LR3 敷地外環境 卓越風を考慮した気流シミュレーションにより周辺地域に配慮した計画としている。また基準値を大幅に下回る値の大気汚染物の排出量とし、地域環境に配慮している。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと

■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

重点項目スコア・結果シート

中日ビル建替計画

■使用評価マニュアル:

CASBEE-建築(新築)2016年版、名古屋市建築物環境配慮制度運用マニュアル

■評価ソフト:

CASBEE_Nagoya_2016(v3.0)

重点項目		評価	全体に対する 重み係数	重点項目 スコア
1. 温暖化対策				4.0
LR1	エネルギー	4.0	0.4	
LR3.1	地球温暖化への配慮	3.9	0.1	
LR3.2.2	温熱環境悪化の改善	5.0	0.05	
2. 自然共生				3.8
Q3.1	生物環境の保全と創出	4.0	0.093932713	
Q3.3.1	地域性への配慮、快適性の向上	無	0.009393271	
Q3.2	まちなみ・景観への配慮			
Q3.3.2	敷地内温熱環境の向上	4.0	0.046966356	
3. 循環型社会				4.3
LR2.1	水資源保護	3.4	0.06	
LR2.2	非再生性資源の使用量削減	4.7	0.18	
LR3.2.3	地域インフラへの負荷抑制 ※2	3.7	0.01875	

結果

1. 温暖化対策

評価点 = 4.0



2. 自然共生

評価点 = 3.8



3. 循環型社会

評価点 = 4.3



重点項目のスコアは以下のように算出している。

$$\text{重点項目スコア} = \frac{(\text{評価点} \times \text{全体に対する重み}) \text{の総和}}{\text{全体に対する重みの総和}}$$

※1 ここでは、Q3. 3. 1の評価する取組みのうち評価項目 1 2) 地域性のある材料の使用 又は、Q3. 2において評価する取組みのうち評価項目 4) 地域性のある素材による良好な景観形成 のいずれかでポイントがある場合は「有」、ない場合は「無」を評価とした。重点項目スコアの算出における評価点は評価「有」の場合は5、「無」の場合は1とし、重みはQ3. 3. 1の全体に対する重みに0. 2を乗じたものとしている。

※2 ここでは、LR3. 2. 3のうち、LR3. 2. 3. 3 交通負荷抑制 を除いたもので評価点及び全体に対する重み係数を算出している。したがって、ここでの評価点はスコアシートにおけるLR3. 2. 3の評価点とは異なるものである。